

## 平成28年度第2回花巻市子ども・子育て会議 会議録

日 時	平成29年2月23日（木）午前10時から午前11時23分まで
場 所	花巻保健センター 2階 集団指導室
出席委員	柳原賢一委員、照井義彦委員、佐藤千秋委員、瀬川和子委員、赤坂礼子委員、佐々木繁夫委員、佐藤恵委員、新田光子委員、中村良則委員、鎌田文聰委員（10名）
欠席委員	伊藤達也委員、鎌倉公順委員、高橋加奈子委員、本宮信也委員、晴山めぐみ委員、玉山敦子委員、高橋圭子委員、牛崎恵理子委員、佐藤良介委員
市出席者	佐藤教育長、市村教育部長、高橋こども課長、八重樫課長補佐、藤村係長、伊藤上席主任
関係各課	スポーツ振興課松浦課長補佐、地域福祉課伊藤係長、吉田係長、障がい福祉課瀬川主任主査兼係長、健康づくり課植田課長補佐、小原係長、市民生活相談センター高橋所長、道路課阿部課長補佐

### 1 開 会 こども課八重樫課長補佐

#### 2 あいさつ 佐藤教育長

おはようございます。皆様お忙しいところ足元の悪いところ、そして遠くから本日の会議にご出席いただきありがとうございます。

今、小学校、中学校あるいは保育園でインフルエンザが発生しており、先生方は毎日の対応に追われているところです。例年よりも少し遅い感じはしますが、これからが本当の勝負かと思っています。

先日新聞にも載りましたが、次期学習指導要領が大々的に公表されました。同時に幼稚園の要領も改訂となりますし、また、今回は保育指針についても幼児教育の充実、就学前教育の充実ということで今議論のとりまとめが盛んに行われております。

また、国においても様々な子育て支援策、あるいは様々な子どもたちの学習、あるいは進路の実現など様々な施策が講じられております。

この会議は子ども・子育て支援法の規定に基づき設置されておりますけれども、本日の会議におきましては、平成27年から31年までを期間とするイーハトーブ花巻子育て応援プランの進捗状況と見直しを議題として率直なご意見を賜りたいと考えております。このプランが策定された当時から数年が経過しておりますが、当時と比べて様々な新しい施策が入りましたし、あるいは子育てニーズも変化しており、その変化に応じてその都度改善を図っていくことが重要と考えております。本来であれば事前に資料を送付しご検討いただくところではありますが、本日の配布となりましたことはお詫び申し上げます。

事業全体が107事業という大変に広範囲となりますが、本日はそれぞれを所管する担当職員も控えておりますのでご不明な点等、ご忌憚のない意見を頂戴したいと存じますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

### 3 議 事

#### (1) イーハトーブ花巻子育て応援プランの見直しについて

〔藤村係長より資料3について説明〕

〔質疑〕

(中村会長)

No.98やNo.99の事業についても変わってくるということでしょうか。

(藤村係長)

こちらの事業につきましては平成28年度の実績値を修正しておりますが、現時点では見込みの段階でありますので、こちらについては来年度の会議の際に改めて確定値を報告させていただきたいと思っております。

(中村会長)

イーハトーブ花巻子育て応援プランの指標または目標値の見直しということですが、この点について意見・ご質問等ありますか。全体で大きく7つに分かれているようですが、どの部分でも構いませんのでご質問いただければと思います。

(藤村係長)

前回の会議の際にご質問いただいている部分がありましたのでご説明します。まずは、乳幼児全戸訪問について担当課からご説明いたします。

(健康づくり課植田補佐)

健康づくり課の補佐をしております植田と申します。よろしく申し上げます。乳児全戸訪問につきまして、訪問は全戸行っております。7か月健診の時にお母さんの気持ちというところで、89.6%が安心であるとの10%程度の方々は不安なのかという事だったのですけれども、7か月健診の時の質問の内容が、不安であるかという事ではなく、体調は悪くないかとか、風邪をひいてませんかとか、仕事の状況はどうですかとか、現在のお母さんの状況を確認した結果となります。

(藤村係長)

No.32の民生児童委員活動事業についてですが、こちらについて、指標、目標値についてと、平成27年度の実績値についてもご指摘いただいておりますので、このことについてご説明いたします。

(地域福祉課 伊藤係長)

健康福祉部地域福祉課福祉企画係の伊藤浩と申します。私のほうからはNo.32の民生児童委員活動事業の平成31年度の目標値等について説明させていただきます。まず、こちらの数値についてですが、民生委員の活動状況という事で、毎月、各民生委員さんからの活動状況の内容を報告いただいたものを取りまとめた物を使っております。報告いただいた報告状況の中で、分野別という事で件数をまとめておまして、高齢者に関する事、障がい者に関する事、子供に関する事、その他としておまして、その中の子供に関する事として数値を記載しております。主に子供に関する事として、相談を受けた数とか、相談を受けた後の支援に繋がった件数も入っておりますので、捉え方についてはそれぞれ地区ごとに決まっておりますので、ばらつきはあるかと思っておりますが、延べの件数という事もありますので、一人の子供に対して何回も対応するという事も背景としてございます。この件数の中には実際の内容としましては、登下校の見守りの件数も入っている状況です。数値を3,500件から3,100件に改めた経緯ですが、ここ数年、全体の活動の件数が100件づつ減っているような背景があり、前回3,500件とした際にはそういった傾向は見られなかったことから、ここ数年の状況を見たときに3年間で全体で300件程減ったという状況の中で、子供の関わり合いの部分が3分の1程度あることから数値の方を改めさせていただきたいというものです。

(藤村係長)

あとは以前にご指摘をいただいている部分として、少年センター事業の指標と目標値の部分でございますが、今回、目標と指標値を変更しておりますので、この部分についてご説明いたします。

(市民生活相談センター 高橋所長)

少年センターの高橋でございます。今回、指標と目標値の設定につきましては事業の継続とさせていただきます。こちら事業内容でございますが、少年非行の未然防止に努めることで、前は有害図書のみで指標を設定しておりましたが、事業的には継続するものであり、最終目標は非行が無くなることと考えておりますので、事業は継続して参るのですが、少年非行は少年センターだけではなく、警察の方で掌握しておりますが、どれくらい補導されたかを継続して見ていくというような形で、どれだけ貢献されているかということで成果を見ていきたいという事で変更させていただきたいというものです。

(藤村係長)

他にご指摘を受けていた事業として、No.42の保育料負担軽減事業でございますが、現在の実績よりも目標値が低いことについて、目標値まで下げるのかというご意見でございましたが、これについてはあくまでこの目標値を常に上回っていくということであり、この目標値を目指すというものではないということでご理解いただければということでもあります。

(佐々木委員)

民生児童委員活動事業ですが、表現を変えた方がいいと思うのですが、例えば、登下校までを含めた集計数となると、民生委員の活動ではなくなるので、民生児童委員等にするとか、他の人たちも協力してくれているという表現にした方が理解しやすいのではないかと。私自身民生委員だが、私みたいに登下校の見守りをしている民生委員もいれば、そうではない方もいるので、民生委員以外の人も関わっているということで、タイトル表現に「等」を足した方がいいのではないかとというのが一点です。あと、No.48の事業で事業内容から「及び」を削除した事業だが、タイトルからは削除されていないのは何故なのかと感ずる。さらに三点目として、31年度の目標値を修正するにあたり、苦慮した部分、配慮した部分があれば教えていただきたい。

(藤村係長)

No.48の事業ですが、国保医療課が担当する事業でございますが、本日は都合により欠席しており私の方から全てについて説明できませんが、事業内容の表記については「及び」の部分に「・」が入るものです。事業名につきましては確認したうえで答えさせていただきたいと思っております。

(中村会長)

これについては表記の問題であって、中身の問題ではないかと思っております。一つの文の中に「及び」が2回も入るのは重複するということで直したのだと思われまして。次に、No.32の民生児童委員に「等」の表記を加えるということについてはどうでしょうか。

(地域福祉課 伊藤係長)

ご意見いただいた点につきましては即答しかねるので、いただいたご意見を参考にこども課と協議しながら見直しについて検討したいと思っております。

(佐々木委員)

No.67 赤ちゃんのふれあい体験の削除した文言について、高校生を削除したのはなぜですか。

(健康づくり課 植田補佐)

高校生は花巻青雲高校の生徒が対象になっていたのですが、夏休みの時の希望者ということで一桁の参加人数だったので、それよりは中学生の方で回数と人数を増やしたいということで修正しました。

(中村会長)

そうするとこれからは高校生には呼びかけないということによろしいですか。

(健康づくり課 植田補佐)

はい。

(中村会長)

他にございませんでしょうか。実態に合わせた指標の変更ということで無理のないかたちでということになっているようです。

(鎌田委員)

No. 74 の特別支援ですが平成 27 年、28 年、そして 31 年の目標のところの推移ですが、不登校の出現率が 27 年度だと 0.2% でしたが、28 年度見込みで 0.20%、そして 31 年度の目標が 0.18%、前は 0.10% でした。少なくなっていくのは大変大事ですし嬉しいですが、こうなればいいなという願いを込めながら、中学校の方は逆に高くなってますよね。前回の 1.33 から 1.76 と、小学校の方は大変下がっているが中学校の方は上がっていく、前より増えていく。こういうことへの対応はどうしたらいいのかということをお聞きさせていただきたい。

(中村会長)

小学校の方も目標値は 0.10 から 0.18 と上がっていますが。

(鎌田委員)

推移としては 28 年が 0.20 ですよね。両方とも目標値は 28 年より下がりますが、特に中学校の方がグンと上がってしまう。

(中村会長)

要するに目標値の設定の仕方というか考え方ということですか。

(鎌田委員)

小学校は下がるが中学校は上がるという原因がこうでしたということと、これへの対応についてお聞きできればということです。

(市村部長)

元々立てていた目標が小学校は 0.1、中学校は 1.33 という目標を立てておりましたが、今の時点での見込みとして小学校は 0.2、中学校は 1.89 であり、現状が高くなっていることで、当初立てた目標よりは小学校も 0.1 から 0.18、中学校も 1.33 から 1.76 とはなりますけれども、現状の見込みの小学校 0.2、中学校 1.89 よりは下げていこうという目標で、現在の状況に合わせた目標の修正ということです。これらの不登校の関係で言いますと花巻市は全国の平均に比べれば高くはない方なのですが、どうしても中学校の方が出現率が高くなるということで、その要因として小学校の段階から中学校に上がる時に、小学校の高学年のあたりから傾向がでてきているという状況もあります。結果とすれば小学校が低く見えますけれど、中学校に行ってから対策を行っても効果が出るというのではなく、小学校の高学年の時からそういう傾向が出始めるといえるのが見えます。小学校から中学校への繋いだかたちでの対応が必要だということで、平成 29 年度からの小中連携の事業について若干ですが予算を配置しながら対応して、9 年間見通したかたちでの不登校を減らすという対応はこれから努力していきたいと考えております。

(鎌田委員)

出現率というと、動かないような特性みたいに感じるが、特性では無いですよ。色

んな環境や状況によって変わってきますよね。不登校・登園拒否などと色々な言われ方しますが、ある国では不登校という言葉を使わないところもある。パーセンテージを下げていくということはもちろん大事だし大変なことです。ですけれども出現率は特性では無い。障がい児の出現率、それから発達障がい児の出現率が6%とか7%、それから県によっては0.何%と統計の取り方によっても違う、そういう意味で出現率の扱いは行政では十分に注意されていると思いますが、こういったことを考える場合、特に教育環境の整備を少しでも進めていただければという視点でやっていかれると思いますし期待しております。

(中村会長)

不登校児出現率という言葉自体の考え方部分もありますが、特別支援に関してはいろいろな取り組みをしている中で、子どもが健全に育っていくというところで、そういった部分を含めたかたちで、なおかつ具体的な指標として不登校児出現率を基準にして事業を進めていこうということかと思いますが、鎌田委員がおっしゃるのは、出現率という言葉が客観的で自然的なかたちで動かないようなイメージがあるので、考え方としては別の表現がふさわしいのではないかということなので、検討できるのであれば文言や表現について検討していただければと思います。

(鎌田委員)

行政でずっと使われてきた言葉ですし、こここのところを変えるのはとても大変で難しいということはおわかりますが、考え方のベースは相対を見て完成させていきたいと思っています。

(照井委員)

この表を見ながら感じたことは、平成28年から31年までの数字ではなくて、この事業に対しての課題が今何かが出てこないと理解しづらい。現在はこうだが31年の目標を達成するためにどんな課題があるかという部分があると、それに向かって改善していこうということになるので、それを入れた資料にしてもらえればこういった会議の場でも理解できると感じている。

(市村部長)

ただ今、照井委員さんからお話があった部分で、全部の事業について記載すると相当見づらい表になると思いますので、見直しをした指標について、現状はこうゆう課題があるので、こういう考え方をもって指標を見直したいということで、107事業になると膨大になるので抽出した形で見直しをする部分について、今お二人の委員さんからご指摘のあったような部分を補足した資料について検討してまいりたいと思います。

(照井委員)

頂いた表の中の事業名ですが、一行ではなくて二行にすると表に余裕がでてくるので、そこに現在の課題を入れていただけるともっと分かりやすいかと思いますがどうでしょうか。

(高橋課長)

ただ今の照井委員さんのご指摘と参考のご意見という部分で、確かに28年度は見込みしか出しておりません。本来であれば28年度の目標値というものもあります。ですので、その目標値に対して見込みが達成してないという部分についてはそれが課題と考えます。そういった部分も含めまして表記の部分は次回に工夫させていただきたいと思っています。

(中村会長)

これは28年度に関して見直して、31年度の目標値を設定するということですが、次回というと29年度の目標を設定する時に、今年度はこんなことをやったので次はこうゆう目標を設定するということでしょうか。

(高橋課長)

28年度につきましては実績が出ている部分もございますが、まだ年度途中ということもありまして今回お出ししているのは見込みの数値でございます。28年度の最終的な数値につきましては次回、29年度になってからしっかりと実績数値を出しますので、そのうえで28年度の目標値と実績の差が大きい事業については、それ以降の目標値を見直しする部分もあるかと思ひますし、随時やっていかなければならないことと思ひます。

(中村会長)

107事業があり膨大なので、全体を把握するのは大変なのでポイントだけを示してもらえれば我々も理解しやすいし話しやすいという感じがするので、ぜひ工夫していただきたい。

(中村会長)

ほかに質問ありませんか。例えばNo.73体験型学習について、31年度の目標を今年度の実績とほぼ同じにしていますが、子どもの数が減っていくときに達成できる目標なのか疑問に感じますがどうでしょうか。

(藤村係長)

こちらは小中学校課の担当する部分ですが、本日出席しておりませんので確認のうへ後日回答させていただきたいと思ひます。

(中村会長)

他にございませんでしょうか。無ければ次の議題に移りたいと思ひます。

## (2) 保育利用の見込について

[藤村係長より資料4について説明]

(中村会長)

幼稚園・保育園等の利用定員について、14ページが各地区の総括表となっておりますし、その後ろが各地区の説明になっていますが、何かございませうか。ちょっと気になったのは17ページの一番下ですが、保育園の利用見込みの確保について、新設見込みの施設が予定から外れたから29年度は24名の不足となっておりますが、この点についての対応策は何かあるのでしょうか。

(高橋課長)

推計では不足ということになってはいますが、これについては保育所の入所という部分ですが、それ以外の対応策について様々検討中であり、4月当初からは難しい部分もありますが、年度内には保育園・幼稚園の一時預かりの拡充でありますとか、あるいは施設の数が不足となっておりますが、実際には定員に余裕のある施設もあります。子どもを預かる保育士が不足しているという実態もあり、人材の確保という部分について市といたしましても対応していきたいと考えています。もう一つは施設が足りないという部分もありますので、例えば見送りになっている法人による新設について早期設置への支援を検討しておりますし、公立園につきましても受け入れ可能な態勢を取るなど、様々な方策を内部で検討中です。

(中村会長)

具体的な対応策があるのであれば、それらについてよろしくお願ひしたいと思ひます。

(中村会長)

保育園の他にも学童もありますが何かありますでしょうか。無ければ資料のとおり変更することとします。議事は2点ですが、他にございませうか。無ければ以上をもって議事を終了といたします。

## 4 その他

(八重樫補佐)

その他ということで、皆様から何かございませんでしょうか。

(中村会長)

もしよろしければ、新たに民営化される保育園の現状についてご紹介していただければと思いますがいかがでしょうか。

(高橋課長)

公立園3園の今年4月からの民営化について、前回子ども・子育て会議の際に経過をご報告申し上げておりましたので、それ以降の部分についてお話しさせていただきたいと思います。それぞれ3園について市内の保育園・幼稚園を運営している法人に運営をお任せするというところで決定したというところまでご報告いたしました。それ以降、昨年10月から実際にそれぞれ3園に運営をお願いする法人の方から、実際に4月から保育を行うための引き継ぎを進めております。4月以降も在籍する保育士がそれぞれに3名程に入ってきて、現在の保育の仕方や来年度も在籍する子どもの様子などを見ていただきながら、円滑な移行を進めるということを行っています。それから、もう一つは引き継ぎをいただく法人と現在の保育園の保護者の代表、当市の3者が定期的に4月以降の運営について話し合いを続けております。各園で年度内に6回程度開催しており、中には食事の提供の仕方や、園児服の関係など細かい部分まで話し合っているところです。このことから4月からの運営についても保護者には理解していただいているところで、3者で合意をしながら進めております。今後につきましては、4月から新たに入られるお子さんもおりますので、そういった保護者への説明会や、園によっては地域への説明会を行いながら、4月からは民営化されることの理解をしてもらっている状況でございます。

(八重樫補佐)

他に無ければ、こども課長から今後の予定についてご案内させていただきます。

(高橋課長)

長時間に渡りご審議いただきまして大変ありがとうございました。本日いただきましたご意見等を今後の子育て支援の参考とさせていただき、次回の会議に反映させていただきたいと思っております。ただ、現在の花巻市子ども・子育て会議委員の皆様は任期が本年の3月21日までとなっておりますので、皆様にお集まりいただきますのは今回が最後となります。来年度の新たな委員につきましては、子ども・子育てに関する団体等からご推薦をいただいたうえで決定し市から委嘱することとしております。子ども子育て新制度が平成27年度からスタートしたところですが、現在の委員の皆様方には花巻市の子ども・子育てに関する様々な事項につきまして貴重な意見をいただきました。このことにつきまして感謝を申し上げますと共に、今後ともご指導ご鞭撻いただきますようお願いいたしまして今後の予定と皆様へのお礼とさせていただきます。

5 閉 会 八重樫課長補佐

以上をもちまして平成28年度第2回花巻市子ども・子育て会議の一切を終了します。

平成 28 年度 第 2 回花巻市子ども・子育て会議において保留していた質問への回答

[質問 1]

(佐々木委員)

民生児童委員活動事業ですが、表現を変えた方がいいと思うのですが、例えば、登下校までを含めた集計数となると、民生委員の活動ではなくなるので、民生児童委員等にするとか、他の人たちも協力してくれているという表現にした方が理解しやすいのではないかと。私自身民生委員だが、私みたいに登下校の見守りをしている民生委員もいれば、そうではない方もいるので、民生委員以外の人も関わっているということで、タイトル表現に「等」を足した方がいいのではないかとというのが一点です。

[回答 1]

指標と目標値が民生児童委員と主任児童委員による活動内容としておりますし、その数値を計上している関係から事業名については変更は予定しておりません。

[質問 2]

(佐々木委員)

No.48 の事業で事業内容から「及び」を削除した事業だが、タイトルからは削除されていないのは何故なのかと感ずる。

[回答 2]

ご指摘のとおり事業名についても事業内容と整合した名称に修正します。

[質問 3]

(中村会長)

No.73 体験型学習について、31 年度の目標を今年度の実績とほぼ同じにしていますが、子どもの数が減っていくときに達成できる目標なのか疑問に感じますがどうでしょうか。

[回答 3]

今回目標値を改めた理由といたしましては、ここ数年の実績値が目標値を上回る場合が多かったことから、現時点での推計に基づいて改めたものであり、目標値としては妥当と考えております。